

# OMNIBUS

大阪医科大学図書館報 / 大阪医科大学附属看護専門学校図書室報

C	O	N	T	E	N	T	S
生命体と非生命体〔今井雄介〕	—	—	—	—	—	—	2
医科大学の医師とは〔猪木千春〕	—	—	—	—	—	—	3
医療環境のルネッサンスを目指して - - 21世紀の医療環境(10)〔牧 彰〕	—	—	—	—	—	—	4
図書館4銃士と私〔坂口哲司〕	—	—	—	—	—	—	5
Medline検索からfull textへのaccessが可能に ~ MedlineとPQDとのリンク付け ~	—	—	—	—	—	—	6
ScienceDirectの利用状況	—	—	—	—	—	—	7
他大学図書館訪問記(14)(田附興風会医学研究所図書室の巻)	—	—	—	—	—	—	8
書評「いのち」の近代史〔金山萬里子〕	—	—	—	—	—	—	9
著作権実務講習会に参加して〔植田浩行〕	—	—	—	—	—	—	10
本学教職員著作寄贈	—	—	—	—	—	—	11
お知らせ	—	—	—	—	—	—	12
図書館業務日誌	—	—	—	—	—	—	12
編集後記	—	—	—	—	—	—	12



# 生命体と非生命体

今井雄介



生理学の実験的研究では多くの手がかりと問題を得ることができる。私の研究経過でしばしば多くの手がかりを持っていながら、真犯人を挙げられないといった無能探偵の様な感覚を味わってきた。実験的および理論的研究という能動的な手段で探し、真実に近いものを推測する。偶然に真実に近いものに当たれば幸運であるが、そうでなければ諦めるほかない。実験的研究の場合、正解であると思えばその間違いを探す実験計画を組み上げる。正解であるとする実験計画よりは、反駁できるような計画の作成が必要であるとポパーはしている。理論研究の場合も最初から理論的に導くものでなく、直感で得た仮説から経験的、実験的にまた理論的に錯誤を探しだし、それらを排除して新しい仮説にし、錯誤が見いだしえなくなった仮説を結論とする。どう考えても真実に近い仮説であると確信できた場合は、その生き残った考えを他人が直感的ではなく、理論的に納得できるように理論化する。こうしたときに基本的な重要なことは考え方の基盤と枠組になる。

私は腺分泌の実験研究から始め、それをシステム論的に理解するための理論研究に入り、回路網熱力学という手段を開発している。物質・エネルギーの過程は容赦のない自然法則に従う。この理解に熱力学という普遍的法則を使うことができ、能動輸送を含む生体膜輸送現象などを良く説明することができる。熱力学は生命体に限らず非生命体にも及ぶ法則である。したがって熱力学からは生命を非生命から区別することはできない。にも関わらず生命が非生命とこれほどまでに違うのかは興味のある問題である。腺分泌についていうと、水・イオンの輸送は熱力学的に理解できる。しかし分泌と非分泌の切り替え、蛋白の合成と分泌、分泌時の腺細胞の制御機構等に情報の知識が必要となる。

いったい生命現象と非生命現象を区別するものは何であろうか？ 吉田民人や米国のH.H.Patteeは「自然法則」のみでなく「規則集合としての情報」が生命体の構成原理となっているとする画期的な説を出している。生命体での法則と規則の役割は広いヒアエルキーレベルに存在する。法則は全てのレベルに課されるが、規則は局所的で恣意的な拘束を課す。情報は微細な物質・エネルギーのパターンであって、表示、伝達、変換、貯蔵されるもので、システム主体はそれらを認知、評価、指令を行う。生命発生以前の世界には情報はなかった。情報は生命発生と共に現れてきて、生命体以上のシステムは情報を伴う。規則情報は記号論的であって、統語論的、意味論的、実用論的側面を持つ。

生命体の特徴に自律性がある。自律性の理解には記号論的機構を欠かすことはできない。ここで自律性は外部制御から独立しているという意味である。ここで自律性は概念的な言葉でなく、生体における情報の認知、評価、指令の内部情報処理機構を指す。DNA遺伝情報の物理化学的過程を介しての蛋白の合成や、感覚受容、認識、効果の機構等を自律性という。従来認識上の必要性から静的な記号と動的過程は分離して考えてきた。進化において遺伝子型と発現系を区別し、記号と物質・エネルギー過程を区別する。DNA遺伝情報は時間非依存的な規則的な暗号であって、それを内部解釈機構が翻訳し、蛋白を合成し、蛋白が時間依存的でダイナミックな酵素、チャネル等の機能を発現して、これらの連鎖は閉じる。細胞の体積調節については内部で生じた体積変化を受容し、認識機構を介して、ダイナミックな体積調節効果を発揮し連鎖が閉じる。Patteeはそれらを意味論的閉鎖、また記号論的閉鎖と呼んでいる。また記号過程が記号と動的過程を繋ぐという意味で認識切断の架橋と呼んでいる。このように自律性の理解には規則情報とダイナミックな法則の両作用の相補的理解が必要となる。こうした考え方の枠組は、すべて自然法則のみによって自然が理解できるとしてきた自然科学者にとってやや馴染めない面もあるが、我々医学、生物学者、さらには社会学者にとっては視野が広がる思いで、かつ考える楽しみを増やすものである。

(いまい・ゆうすけ 第1生理学教授)

## 医科大学の医師とは

猪木千春

今回、「図書館報に原稿を」とのことでしたが、小生は小学生の頃から落ち着きがなく、よく注意されたことがトラウマになっている(?)のか、図書館で「本を読む(読み続けるではない)」とか「勉強する」という習慣がありませんでした。私にとって図書館とは今でも「どうしても手近で得られなかった資料を得るための本を探し、コピーする時間がない、コピーするには資料が多い、時のみ止むを得ず貸し出しをしてもらうところ」というものです。そのため利用回数は極端に少なく、本学でも現在の図書館になり入館用カードをいただきましたが、今のカードに変更されたことも半年以上知らなかったのです。何か原稿を、と考えても図書館関係では何も思いつかないのです。そこで医科大学の医師とは、どれほど特殊なものであるかを考えてみました。

私は平成13年9月で大学を退職し、現在は他病院に勤務しています。大学では非常勤講師として外来診療と学生講義を担当しています。一般病院に勤務してしまえば、その仕事内容は当然ながら臨床中心となります。世の中全体が不況のなか、社会保険診療点数の引き上げなどは期待できず、勤務医としての評価は外来患者数、入院患者数、手術件数、保険と自費を合わせた収入金額(薬剤費や検査費を除く)等であり、病院によっては毎月のように報告があります。一部の病院では研究(特に臨床研究)も評価されますが、それも悪く言えば病院の宣伝としてかもしれません。

さて医科大学では、臨床、研究、学生教育という三本柱があります。「臨床」では大学附属病院の臨床医として、一般病院の勤務医の臨床の他に重要なものがあります。それは研修医を含めた若い医師への教育、指導です。自分が多くの先輩方からの御指導を頂き、実地を重ねて勉強したものを、今度はそれを後輩に伝えるというものです。多くの時間を使い、肉体的、精神的ストレスは計り知れないものの、これが客観的に評価されるのは非常に困難でしょう。

「研究」に関しては、学会報告や論文投稿、著作物などで評価し易く、また大学の研究者として評価され易いものでしょう。

「学生の教育」については、最近までは系統講義、ベッドサイド、卒業試験と、自分が受けた経験のあるものでしたが、カリキュラムの変更、シラバスシステムの変更等にとまどうばかりです。学生に対する大学の教員として、変更された教育基準、その意義を十分に理解することが必要です。また、教室員の確保のためとも言えますが、学生の進路指導(?)も必要でしょう。これらのためには多大な時間と労力を要するのですが、客観的な評価は難しく、現実には高い評価を得ているとは言えないでしょう。極端な言い方をすれば多数の教室員が確保された時のみ感謝され、また自己満足も得られるのです。

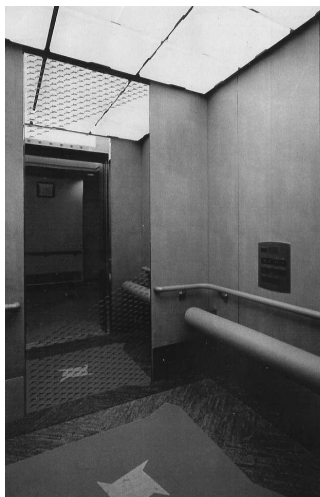
このように医科大学の医師とは、大学附属病院の臨床医、大学の研究者、大学の教員としての役割があり、多忙なものであることが理解していただけるかと存じます。

(いのき・ちはる 産婦人科学非常勤講師 生駒総合病院婦人科)



## 医療環境のルネッサンスを目指して - - 21世紀の医療環境 (10) - -

牧 彰



エレベーター内のベンチが優しい  
赤穂市民病院

真に心の通う地域医療とは何でしょうか。日本の病院に最も欠如しているものとは何でしょうか。第三次医療の大学病院や国立病院などの役割とは何でしょうか。一体どうしたら地域住民に信頼され、未永くその使命を全うすることができるのでしょうか。

[患者への人権軽視]とあまりにも[侘しい療養環境]のために、欧米人は日本の病院には入院したがりません。身動きの不自由な入院患者にとって、最も辛く悲しいこととは何でしょうか。それは「自らの排泄行為を他人に委ねざるを得ない」ことです。この世の中で、これほど「人間性を深く傷つけられる」ことが他にあるのでしょうか。近くにトイレさえあれば、ちょっとした人の介助で自力で排泄できるのです。日本の病院では、患者の[人間としての尊厳]は認められないのでしょうか。

入院患者にとっての[ささやかな慰め]とは何でしょうか。それは「病床から外の景色を眺める」ことなのです。患者は病室の窓を通じて、唯一[自然とのコミュニケーション]を図れるのです。日本の病室には、どれだけの自然があるのでしょうか。古代ギリシャの医聖ヒポクラテスは「自然から遠ざかるほど人は病気に近づく」と唱えました。[人間もまた自然の分身]であり、私たちの「病んだ心身は、自然によってこそ真に励まされ癒される」ものなのです。

ナイチンゲールは、「綺麗な空気・水・病室への日照・病床からの眺めが病気を癒す」と提言しています。彼女の言葉を引用するまでもなく、看護の基本は大いに[病院のアメニティ]にあるのです。患者本来の生命力や自然治癒力などを存分に発揮させるためには、自然と自在に触れ合える療養環境は不可欠です。まずは[自然の摂理]を尊重した患者に優しい設計が何よりも大切なのです。

ナイチンゲールの時代から百数十年経ちました。日本のどれだけの病院が[医療環境のアメニティ]に真剣に取り組んできたでしょうか。[共生]の世紀・[人権]の時代に生きようとする私たちが、今しなければならぬ一番大切なこととは一体何でしょうか。

建築設計の分野では、病院はまだ十分に市民権を得ているとはいえません。病院建築は正当な建築家の仕事の対象外なのです。病院設計は今だに機能的であればよいと認識されているのです。日本の病院が[建築という芸術]であるためには、医療スタッフや設計者の[医療への熱い想い]が不可欠です。従来のだどの病院は、決して[建築]ではなく単なる医療のための[装置]であり、「建築は文化である」ことへの配慮に欠けているのです。

病院は単体の建物ではなく、多様な複合施設です。弱者(患者)と健常者(医療スタッフ)が共存する[コミュニティ]であり、いわば[社会の縮図]です。それゆえに、病院は決して無機質のコンクリートの器であってはなりません。病院は病んだ心身を優しく抱擁して労り励ます[有機的生命体]であり、病院こそ人の心に直に響く文字通りの[美しい建築]でなければならないと私は固く念じています。

私が赤穂市民病院の設計・監理を通じて得た教訓は、病院は決して特殊な建築などではなく、誰にでも解りやすいごく[普通の建築]であり、また、病院は人の喜怒哀楽の全てを直に体験する[人生の縮図]でもあることです。それゆえに、病院こそ真に[ヒューマニズムの建築]であり、そこでは常に医療スタッフと設計者の[真の人間性]が問われているのです。

(まき・あきら 元日建設計社員 本学総合研究棟・本学図書館棟設計担当)

## 図書館 4 銃士と私

坂 口 哲 司

読書人の楽しみは、書店で新刊本を見つけ、自腹を切って買い求めた時にあります。図書館で、本を借りて読む以上の喜びがあります。本は自分で買ってこそその楽しみです。私にとって、図書館は、何か書き物をする場合に、調べものをしたり文献を求めるために活用させていただいています。

私は、論文は別として、これまで単著 1 冊、編著 3 冊、分担執筆 8 冊を上梓してきました。これが出来たのは、ひとえに図書館の 4 人の専門員の方々の出会いとそのおかげによるものです。

私は、博士課程後の 4 年間の非常勤生活から、大阪教育大学の指導校である現職場に縁あって勤務致しました。専門学校に勤務して痛感したのは、研究費や図書館の不充実さでした。調べるにしても論文を書くにしても困難を要しました。その折、援助していただいたのは、元大阪教育大学図書館事務長で前本学学務次長であった野路八郎氏、並びに元大阪教育大学図書館専門員・西田 鉦子氏、現大阪教育大学図書館専門員である加藤登氏・寒川登氏の 4 銃士のおかげでした。書店で買い求めるのには、たとえ軍資金を投入しようとも絶版などの限界があり、彼らの有形無形のご援助がなかったなら、本の執筆どころか論文ひとつもこの世に問うことはできなかったと思います。

博士課程を終えた後、母校の大学にそのまま勤務したり、他大学や短大などにそのまま横滑りに勤務したりしてしましたら、これほどまでに図書館のありがたさを知る由もなかったと思います。

図書館員の方々は、必要とあれば全国の大学図書館や関連研究機関に問い合わせ、文献複写や書籍を借りる手続きをされ、返却にいい加減な利用者にやきもきしながらも、期限までに返却する気配りをしていかがえます。業務とはいえみなみならぬものがあります。そのために、日頃から図書館関連会合に出席され、人的交流を形成されていかがえます。その所産が、文献や書籍や諸処の問い合わせなどで、場合によっては事と次第で公的に問題化することがあっても最小限にいくとどめていかれる配慮をなされます。利用者への要求に万全の体制でのぞもうとされておられる次第です。

縁の下の力持ちとしての姿を見知っていなかったら、ひょっとしたら、図書館の職員の人達は利用者側の一方的な要求に常に従うものだという、傲慢不遜な考え方に陥った教員や利用者になっていたかも知れません。館員の苦勞を知らなければ誰もがなっていたでしょう。その意味で、研究や学問から一歩遠い位置にある状況を経験したことが、私の人間形成にも良かったようにも思います。

今、私は、日赤のある病院の医療倫理委員会院外委員として、3 年目を迎えました。専門外の議論ばかりですが、自信を持って意見できるのも、いつでも必要とあれば、大阪医科大学の図書館を活用させていただけるという背景があるからです。中休みはありましたが、通年 24 年間の貴看護専門学校とのご交流のなかから、関係者の方々の暖かいまなざしがあるからです。貴図書館をいつでも利用できるという安心感を与えていただいている雰囲気は、まさに何物にも代えがたいものがあります。振り返るたびに暖かく見守る保護者のまなざしを感じながら、遊びに集中していく幼児の心境です。

図書館利用者側は、本が読める・知りたいことが調べられるということ、当たり前のように思って図書館員と接しています。自分に都合の良い打ち出の小槌のように思う人もいます。そのような利用者の欲求をもの静かに黙々と目に見えない形で下支えして、ひたすら日々提供していただいております。全国の図書館員の方々に対してまして、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

(さかぐち・てつじ 大阪教育福祉専門学校教授・看護専門学校非常勤講師)

# Medline検索からfull textへのaccessが可能に

～ MedlineとPQDとのリンク付け～

ProquestDirect (以下PQD) システムの導入については、OMNIBUS no.18ですすでにお知らせしましたが、その後、PQD掲載誌(約400誌)とMedlineとのリンクをおこないました。その結果、Medlineを検索し、求める論文がヒットした場合、その論文のタイトルがPQDに掲載されているタイトルであれば、即座にその論文のfull textが入手できるようになりました。これは、これからの傾向である、2次情報データベースと一次情報データベースとのリンクの一例です。

次に、具体的検索例を挙げ説明いたします。

1. まづMedline検索で「アメリカ人の肺癌に関する文献」について検索しました。92件ヒットした中でPQDにあるタイトル「Biometrics」に掲載されている論文の一部が図1です。この場合、論文名がNormal approximation diagnostics for the Cox modelで、Biometricsの55(4):1114-9にその論文が掲載されていることを示しています。そして、full textがavailable on ProQuest Directとなっています。つまり、この論文はPQDへのリンクによりfull textが直接入手できることを意味しています。
2. 次に、ProQuest DirectをクリックするとPQDのcontents画面に飛びます。  
そして、求めるvol.55.iss.4をクリックします。 図2参照
3. 求める論文名Normal approximation diagnostics for the Cox modelをクリックする。 図3参照
4. 最後に、求める論文のfull textが表示されますので、それをprint outしてfull textが入手できます。 図4参照

図1

このシステムは本学では、実現出来ていますが他大学では、まだ例が少ないようです。また、PQDそのものの利用は本学のhome pageからaccess可能ですので、多いにご活用ください。

```
WinSPIRS 4.01
Usage is subject to the terms and conditions of the subscription and License Agreement and
the applicable Copyright and intellectual property protection as dictated by the
appropriate laws of your country and/or International Convention.

No.      Records      Request
 1         13088        lung
 2         30979        cancer
 3          3203        lung and cancer
 4         6094         american
* 5           92          #3 and #4

Record 1 of 1 - MEDLINE(R) on CD 2001/07-2001/08
TI:      Normal approximation diagnostics for the Cox model.
AU:      Chang,-C-C; Weissfeld,-L-A
SO:      Biometrics. 1999 Dec; 55(4): 1114-9
*LHM:    Full text 3/1/98+ available on ProQuest Direct ✓
IS:      0006-341X
LA:      English
AB:      We discuss two diagnostic methods for assessing the accuracy of the normal
approximated confidence region to the likelihood-based confidence region for the Cox
proportional hazards model with censored data. The proposed diagnostic methods are
extensions of the contour measures of Hodges (1987, Journal of the American
Statistical Association 82, 149-154) and Cook and Tsai (1990, Journal of the American
Statistical Association 85, 770-777) and the curvature measures of Jennings (1986,
Journal of the American Statistical Association 81, 471-476) and Cook and Tsai (1990).
These methods are also illustrated in a study of hepatocyte growth factor in patients
with lung cancer and a Mayo Clinic randomized study of participants with primary
biliary cirrhosis.
AN:      21210030
```

図2

## ***Biometrics; Washington.***

11 issues matched your search, with the most current shown here. Display the articles from an issue by clicking on the desired issue. To find earlier or additional issues, change the date range above and click Search.

- [Sep 2001; Vol.57, Iss.3](#)
- [Mar 2001; Vol.57, Iss.1](#)
- [Sep 2000; Vol.56, Iss.3](#)
- [Mar 2000; Vol.56, Iss.1](#)
- [Sep 1999; Vol.55, Iss.3](#)
- [Mar 1999; Vol.55, Iss.1](#)
- [Jun 2001; Vol.57, Iss.2](#)
- [Dec 2000; Vol.56, Iss.4](#)
- [Jun 2000; Vol.56, Iss.2](#)
- ✓ ● [Dec 1999; Vol.55, Iss.4](#)
- [Jun 1999; Vol.55, Iss.2](#)

ProQuest 1/2 ページ

There are 62 articles available for "Biometrics, Washington, Dec 1999; Vol.55, Iss.4".

1. Scroll the list to browse available issue articles.
2. Click a title to display the article.

> Click Help to learn about article formats such as Full Text and Page Image.

26. Estimating equations for removal data analysis; *You-Gan Wang*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1263, 6 pgs
27. Estimating regression parameters and degree of dependence for multivariate failure time data; *Cedric Mahe*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1078, 7 pgs
28. Fitting a regression model for genotype-by-environment data on heading dates in grasses by methods for nonlinear mixed models; *Hans-Peter Piepho*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1120, 9 pgs
29. Genomic control for association studies; *B Devlin*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 997, 8 pgs
30. Hierarchical proportional hazards regression models for highly stratified data; *Bradley P Carlin*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1162, 9 pgs
31. Improved error bounds for genetic distances from DNA sequences; *Grainne McGuire*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1064, 7 pgs
32. JMP Start Statistics: A Guide to Statistics and Data Analysis using JMP and JMP IN Software; *L Thomas*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1319, 2 pgs
33. Latent model for correlated binary data with diagnostic error; *Joanna H Shih*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1232, 4 pgs
34. Likelihood-based experimental design for estimation of ED50; *Salomon Minkin*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1030, 8 pgs
35. Local Polynomial Modelling and Its Applications; *Anonymous*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1321, 1 pgs
36. Minimally selected p and other tests for a single abrupt change point in a binary sequence; *Aaron L Halpern*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1044, 7 pgs
37. Model choice and influential cases for survival studies; *Wen Hsiang Wei*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1295, 5 pgs
38. Multiple comparison of entropies with application to dinosaur biodiversity; *Kathleen S Fritsch*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1300, 6 pgs
39. Multitype spatial point patterns with hierarchical interactions; *Harri Hogmander*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1051, 8 pgs
40. Multivariate elliptically contoured distributions for repeated measurements; *J K Lindsey*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1277, 4 pgs
41. Nonparametric identification of the minimum effective dose; *Yuh-Ing Chen*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1236, 5 pgs
42. Normal approximation diagnostics for the Cox model; *Chung-Chou H Chang*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1114, 6 pgs
43. On the equivalence of meta-analysis using literature and using individual patient data; *Thomas Mathew*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1221, 3 pgs
44. On the use of historical control data for trend test in carcinogenicity studies; *Jianguo Sun*; **Biometrics**, Washington, Dec 1999; Vol. 55, Iss. 4; pg. 1273, 4 pgs

.../pqdlink?Ver=1&Exp=07-01-2003&RE=3&PUB=000037041&ISS=001112011&Cert=f 01/10/05

Document 1/6 ページ

**Normal approximation diagnostics for the Cox model**  
*Biometrics*; Washington, Dec 1999; Chung-Chou H Chang; Lisa A Weissfeld;

**Volume:** 55  
**Issue:** 4  
**Start Page:** 1114  
**ISSN:** 0006341X  
**Full Text:**  
 Copyright International Biometric Society Dec 1999

**[Headnote]**  
**SUMMARY.** We discuss two diagnostic methods for assessing the accuracy of the normal approximated confidence region to the likelihood-based confidence region for the Cox proportional hazards model with censored data. The proposed diagnostic methods are extensions of the contour measures of Hodges (1987, *Journal of the American Statistical Association* 82, 149-154) and Cook and Tsai (1990, *Journal of the American Statistical Association* 85, 776-777) and the curvature measures of Jennings (1986, *Journal of the American Statistical Association* 81, 471-476) and Cook and Tsai (1990). These methods are also illustrated in a study of hepatocyte growth factor in patients with lung cancer and a Mayo Clinic randomized study of participants with primary biliary cirrhosis.

**[Headnote]**  
**KEY WORDS:** Consorted data; Confidence region; Cox model; Curvature; Normal approximation; Regression diagnostic.

1. Introduction

The Cox (1972) proportional hazards regression model is usually applied to analyze survival data for which the time-to-response outcome variable is influenced by other prognostic factors. Estimates of the regression parameters are obtained by maximizing the corresponding partial likelihood function. The confidence interval and confidence regions of these estimates are either obtained by likelihood-based (likelihood ratio type) or normal approximated (Wald type) statistics. Very often, a normal approximated confidence region is used to approximate the likelihood confidence region because of its computational simplicity. Although the accuracy of this region is important for both estimation and inference, there are currently no diagnostics available to assess this accuracy for the Cox model.

The boundary of the normal approximated confidence region is a quadratic surface that approaches the likelihood surface around the maximum likelihood estimate. The approximation becomes exact if the model is normal and linear. However, the approximation may be inaccurate for other underlying distributions. Diagnostics for assessing the adequacy of the normal approximation are given for normal nonlinear models, logistic regression models, and generalized linear models; for details see Beale (1960), Bates and Watts (1980, 1981), Hamilton, Bates, and Watts (1982), Cook and Goldberg (1986), Hamilton (1986), Jennings (1986), Hodges (1987), and Cook and Tsai (1990). In fact, these methods are applicable to any normal approximation to a likelihood or a posterior distribution.

We consider two examples that are quite different. The first example is taken from a study of hepatocyte growth factor (HGF) in 56 lung cancer patients. This data set is considered small because only 14 patients died at the end of the study, and one would expect that the asymptotic approximations used to compute confidence regions may not be accurate. The second example is taken from the Mayo Clinic primary biliary cirrhosis (PBC) study. This data set contains 312 participants and would be considered a moderate- to large-sized data set because there are 125 deaths in the data set. Because the PBC data set is sufficiently large, one would expect the asymptotic approximations to be accurate.

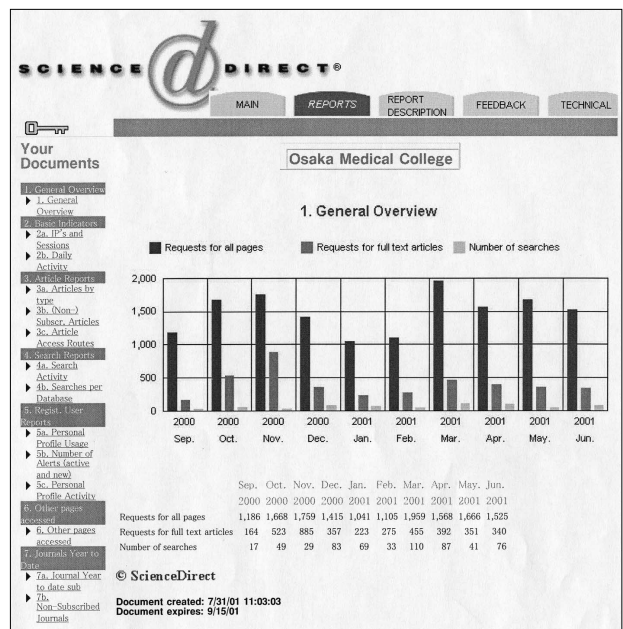
Table 1 presents the results from the HGF study (Siegfried et al., 1997). Tumor specimens from 56 patients with nonsmall cell lung cancer were examined in an observational study looking at the relationship between patients' survival and their quantitative levels of HGF. These patients underwent lung resection at the University of Pittsburgh Medical Center or at the Fox Chase Cancer

.../pqdlink?Ver=1&Exp=07-01-2003&FMT=TG&DID=00000049235797&REQ=1&Cert= 01/10/05

## ScienceDirectの利用状況

ScienceDirectは、Elsevier社（以下E社）が1997年から始めた科学情報のオンラインサービスで、インターネットを利用して、E社が提供する約1200タイトルの学術雑誌のfull textがみられるものです。勿論、このシステムが利用できるためには、E社の刊行する雑誌を一定量購読する必要があります。本学はE社刊行の外国雑誌を約2000万円購入しています。そのため、現在ScienceDirectが利用できる「参加基準額」を満たしています。しかし、2002年からは、E社購読誌すべての雑誌価格に一定額のオンライン料金を追加支払いをしないと、full textが利用できなくなります。

本学は、1999年から2001年までは、ScienceDirectを利用して、full textにaccessできますが、2002年からは継続して利用できるかどうかは現在のところわかりません。



ともあれ、本学でScienceDirectのシステムがどれだけ利用されているかをE社が提供するUsage Reportで分析しました。

1. 全般的な利用状況

図1は2000年9月から2001年6月までの本学の利用状況です。

これをみると、2001年3月が一番利用が多かったことがわかります。

2. 利用者数等の推移

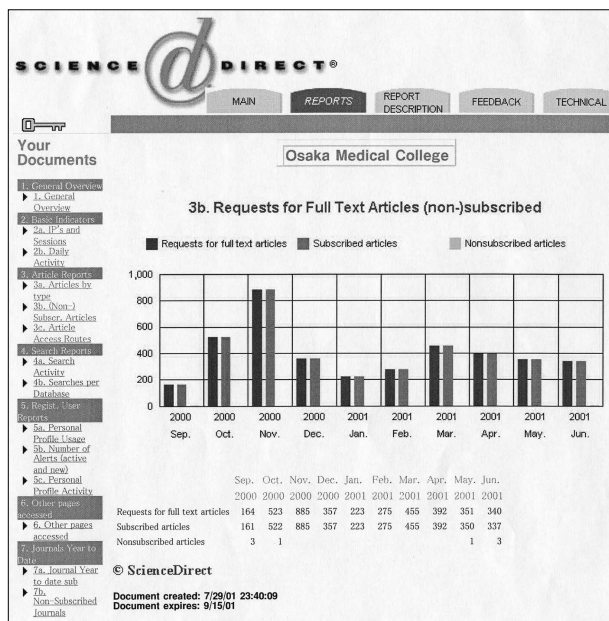
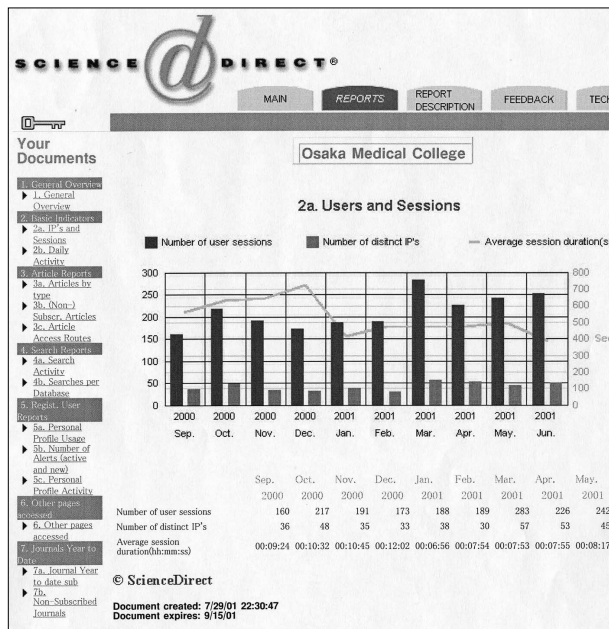
図2のuser sessionの数は、月平均207回です。また、access端末の数は月平均41台です。この数が他大学に比べて多いのか少ないのかは、比較するデータがありませんのでわかりません。

3. full textへのaccess回数

図3は購読誌と非購読誌に対するfull textへのaccess回数です。これをみると、購読誌に対するaccessがほとんどです。このことは、本学は利用者が必要とするE社刊行の雑誌を、最低購読していると考えていいのでしょうか。

以上三つの利用状況について概観してみました。

なお、ScienceDirectの利用は、図書館のhome pageからaccessできますので、多いにご利用ください。また、2002年からも継続してこのシステムが利用できるよう図書館としても努力いたします。



他大学図書館訪問記 (14)

田附興風会医学研究所図書室の巻



北野病院外観

財団法人田附興風会医学研究所は田附政次郎氏の寄付金により、大正14年(1925年)に設立されました。昭和3年(1928年)に病院を併設し北野病院と命名されました。

平成10年5月旧病院の北側天満中学校跡地(大阪市北区扇町)にて、新病院の工事が着工された。平成13年8月に新病院の工事が完成され、9月より新病院「北野病院」にて診療が開始された。新病院棟は地上15階地下3階建ての構造で、病院全体の写真で半円形となっている部分が南向きになって



います。患者本位の病院・将来にわたる高度医療・使いやすく働きやすい病院・安全な病院をモットーとした都市型・高機能集約型病院だそうです。

交通機関としてはJR大阪環状線天満駅が最寄駅となり、駅から西へ7分位の位置になります。そのほか大阪市営地下鉄堺筋線扇町駅が、谷町線中崎町駅からいずれも徒歩約5分で大阪北の中心地梅田からも近い場所です。

図書室も同年8月26日より、新病院内に移転され業務を開始されました。図書室は5階半円形の東部分にあり、南から東への円弧を描いた窓を持っています。室内は明るく心地よい感じがします。広さは230平米ほどで、地域医療研修センターが併設されています。この地域医療研修センターは近辺の開業医の方々の、情報活動の拠点にと設置されたそうです。またこの5階部分は半円形の病棟中央部が吹抜けとなっている最下部で、「プラナホール」と名付けられた病棟ラウンジになっており、食堂や休憩ラウンジがあります。なお「プラナ：Prana」とは印度哲学の「宇宙の生氣、エネルギー」をあらわすヒンズー語に由来するそうです。

図書館の開館時間は、平日午前8時45分から午後4時53分まで、土曜日は午前8時45分から午後2時45分までです。休館日は日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)、開院記念日(6月1日)、第2土曜日です。なお閉館時には無人開館も行なっておられ、個人IDカードに磁気部がありリーダーに通すことにより開錠し入室できます。



図書室内

室内は入口入って左手にカウンター・事務室があります。右手には文献検索コーナーがあります。文献検索コーナーにはインターネット利用やCD-ROM検索用のパソコンが合計5台あり、医学中央雑誌や今日の診療のCD-ROMが利用できます。ビデオは2台です。書架は新着雑誌・新着図書・未製本雑誌・書籍と続き、奥には集密式書庫が製本雑誌と古い単行書を排架してあります。購入受入れ雑誌は洋雑誌150点・和雑誌110点で、単行書は2100冊余り所蔵されているそうです。閲覧席は一人用閲覧机が8席と、4人がけ机が2席あります。コピーコーナーには普通機とカラーコピー機が設置されています。

同図書室は設置形態としては病院図書室になりますが、医学関連の情報活動にはいろいろと努力されておられ、日本医学図書館協会にも昭和40年(1965年)より加盟されています。

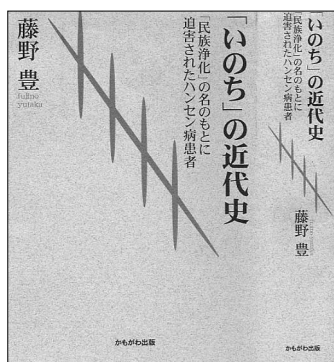
職員の方は図書室・地域医療研修センター共に各1名で、すべての事に対応されておられます。利用者の方々の様々な問合せや要望に、いつも笑顔で心地よく対応できるように努められておられるようです。

(宮本)

## 書評

### 『「いのち」の近代史 --「民族浄化」の名のもとに迫害されたハンセン病患者』

藤野 豊 著 かもがわ出版 2001年  
金 山 萬里子



新しい世紀を迎えた今年2001年は、日本におけるハンセン病史にとっても、まさしくepoch-makingな年となった。というのも、1996年に「らい予防法」が廃止されたものの、なお残されていた問題の解決、すなわち患者・元患者に対する国の責任の明確化と謝罪、患者らの完全

な名誉回復、を求めて1998年に起こされた「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟における2001年5月の原告全面勝訴判決確定を承けて、第二次以降の訴訟についても和解が成立しつつあり、未入所者の扱い等、なお未解決部分が残るとはいえ、過去1世紀にわたって国家がハンセン病患者とその家族に加えてきた不当な迫害の歴史に、ようやく終止符が打たれることとなった年だからである。

こうした状況に合わせて、今年はハンセン病関係の報道・出版物も数多く出ているが、なかでも本書『「いのち」の近代史』は、膨大な一次資料を駆使して、国家によるハンセン病患者迫害の歴史の全容を克明に検証している労作である。

本書の叙述はほぼ編年体形式をとっており、読者は時代の経過を追って、ハンセン病の病態研究の進捗や特效薬の登場にもかかわらず、否むしろそれに逆らうかのごとく、患者に対する迫害政策が強化されていく過程をつぶさに読み取ることができる。国による患者隔離の動きは1900（明治33）年前後から始まっているが、「強制隔離」と「断種」を二本の柱とするハンセン病政策は、法律的には1907（明治40）年の「癩予防二関スル件」（放浪・貧窮患者の隔離）に始まり、戦前は1931（昭和6）年「癩予防法」（全患者の隔離）と1940（昭和15）年「国民優生法」（1915（大正4）年以来の既成事実であった断種を、拡大解釈により正当化）、さらに戦後は1948（昭和23）年「優生保護法」（ハンセン病を断種対象として明記）、1953（昭和28）年「らい予防法」（強制収容・懲戒規定の強化）により強化されていった。そしてこの状況は、1996（平成8）年の「らい予防法」廃止、「優生保護法」の「母体保護法」への改正にいたるまで続くのである。

しかし、ハンセン病の感染力がきわめて微弱なものであることは、専門家には早くから知られていたし、また、感染症に対して断種が無意味な処置であることも自明の事柄である。要するに隔離も断種も、最初から医学的根拠を欠いた不必要かつ不当極まりない政策だったのである。にも拘わらず、国はハンセン病を恐ろしい感染症と位置付けて隔離を正当化し、実態は監獄に近い療養所の壁の内側で、「民族浄化」のための手段として患者たちに断種手術や人工妊娠中絶を強要してきた。なぜ、このような言語道断の蛮行が、数知れぬハンセン病患者たちの「いのち」--人権--の蹂躪が、「救らい」の美名のもとに90年以上にもわたって許されてきたのか。

今年5月の国の敗訴判決が示すように、最も重い法的責任が国にあることは言うまでもない。しかし、その国策に積極的に関与し、それを強力で推進してきた医師たちもまた、重大な責任を免れることはできないであろう。医療者にとって最も重要なことは、あくまでも一人ひとりの患者の側に立つこと、国策や自分たちの権威、利益を患者の救済、患者の人権にけっして優先させないこと、そして、医師としての学問的良心に徹すること--一言で言えば、医の原点につねに立ち帰ることであろう。それでなければ、医学界は同じ過ちを幾度でも繰り返すことになるのではないか。この国のハンセン病患者たちの長い苦難の歴史が医師たちに突きつけているのは、この重い問いかけである。

（かなやま・まりこ 哲学助教授）

## 著作権実務講習会に参加して

植田浩行

去る8月29日から31日にかけて神戸大学において文化庁主催の平成13年度図書館等職員著作権実務講習会が開催されました。この講習会は図書館の実務に携わる者に対し著作権に関する知識を習得させる目的で開催され、著作権や著作物・著作者の定義、著作者に与えられる様々な権利内容ならびに権利制限、著作権に付随する権利や国際的な著作権保護のための条約規定、図書館における

資料複写と著作権法との関係について具体的な例を交えて講義が行われました。

そもそも著作権とは著作物（論文や小説、美術品、音楽などの創作物で図書館に所蔵している書籍や雑誌類もこれに含まれる）を創作した者に対して認められている権利であり（著作物を創作した者を著作者と言う）、特許と違い申請などをしなくても著作物を創作した時点で権利が発生します。わが国で発行された著作物は著作権法の保護の対象になりますが、海外の著作物についても国際条約の規定により日本の著作権法により保護されます。

著作権は著作者人格権と財産権に大別され、未公表の著作物を無断で公表されない権利である公表権や自著の内容を勝手に変えられない権利（同一性保有権）は前者に含まれ、書き写しや写真、録画などの手段で著作物を形あるものに再生する（複製する）事に関する複製権や著作物を公に上演する上演権などは後者に該当します。

財産権は著作者人格権と違い一部もしくは全部を他人に譲渡したり相続したりすることができるので、著作者が必ずしも著作権者であるとは限りません。

ところで本来著作物の利用について著作権を有する者（著作権者）に許可を得て使用料を支払う必要がありますが、利用する度にいちいち許可を得たりするのは無理があるので、著作権法では私的使用や図書館における複製など一定の条件のもとで例外的に著作権者の許可を得なくても著作物を複製できる旨規定されています。

私的複製とは個人的に使うために著作物を複製することで、自分で聞く目的でCDを借りてきてダビングすることがこれに該当します。

また、著作権法31条では図書館において（ここでいう図書館とは大学図書館や公共図書館のことで、民間企業の専門図書館や小学校などの図書室は含まない）図書館資料を複製することを認めています。よくコピー機を使って図書館で所蔵する文献を複写する光景が見受けられますが、その文献の著作者に無断で複写できるのも著作権法上の例外規定が存在するからこそ（もっともいくら複写が認められているといっても、図書館資料を1冊丸々複写することは法律違反となります）。

今回の講習を受講して普段図書館で行われている業務が著作権法による理由付けがなされていることが分かり、またこれまで著作権についてろくに念頭に置かず図書館業務に携わってきたということを痛感させられました。そしてこれを機会に著作権について正しく理解し常に気を付けながら業務に従事したいと思いました。

（うえだ・ひろゆき 庶務係）

## 本学教職員著作寄贈

河野 公一（衛生学・公衆衛生学）

病気からみた高齢者在宅ケアマニュアル / 河野 公一 他編 金芳堂 2001

症例からみた高齢者在宅介護マニュアル / 河野 公一 他編 金芳堂 2001

藤本 守（前本学学長）

新理科学大系 第19巻 / 藤本 守 他編 医学書院 2000

林 秀行（医化学）

タンパク質；科学と工学 / 林 秀行 他著 講談社 1999

勝岡 洋治（泌尿器科学）

改訂 泌尿器悪性腫瘍治療ハンドブック / 勝岡 洋治 他編 新興医学出版社 2001

## お知らせ



### 1. 貸出し時間の延長

8月1日(水)から図書資料の貸出し時間が一時間延長され、午後8時30分までとなりました。なお、土曜日は従来どおりです。

### 2. 外国雑誌移動作業を終了

2階に配架されている外国雑誌の配架スペースが狭隘化したため、8月13日から23日の間、2階にある外国雑誌約8000冊を地下一階に移動いたしました。移動後の雑誌は以下のとおりです。

1) 2階に配架されている製本雑誌 1994年から2001年まで

2) 地下一階に配架されている製本雑誌 1993年以前のもの

### 3. JCR web版を購入

Journal Citation Reports web版をこの度購入いたしました。各教室の端末からいつでも図書館のhome page を経由して利用できますので、多いにご活用ください。

なお、利用マニュアルは各教室に一部配布しております。

### 4. 新規受入雑誌(看護専門学校)

1 臨床心理学 1(2001) +

2 SEXUALITY(季刊セクシュアリティ) 1(2001) +

## 図書館業務日誌

5月

11日(金) 日本医学図書館協会基礎研修会  
実行委員会(於、京都府立医大)

17日(木) - 18日(金)  
日本医学図書館協会総会(於、  
獨協大)

23日(水) - 24日(木)  
一回生に対する医学情報検索実  
習(於、図書館)

6月

4日(月) 日本医学図書館協会総務会(於、  
協会中央事務局)

11日(月) 館報20号発行

21日(木) 図書館合同運営委員会(於、会  
議室)  
Current contents web版等デモ  
(於、ニューメディア情報室)

7月

6日(金) 日本医学図書館協会基礎研修会  
実行委員会(於、京都府立医大)

26日(木) 日本医学図書館協会理事会、評  
議員会(於、東大医学部)

8月

1日(水) 丸善電子ジャーナルシンポジウ  
ムに館員参加(於、ホテルト  
コ新大阪)

3日(金) 紀伊国屋ジャーナルセミナーに  
館員参加(於、大阪ガーデンパ  
レス)

8日(水) - 10日(金)  
日本医学図書館協会基礎研修会  
(於、京都府立医大)

13日(月) - 23日(木)  
外国雑誌移動作業

29日(水) - 31日(金)  
平成13年度図書館等職員著作権  
実務講習会に館員参加(於、神  
戸大)

## 編集後記

今回のトップ記事は、来年3月に定年退官される今井雄介教授に、また、エッセイは、猪木講師にお願いしました。「二十一世紀の医療環境」のシリーズは、10回目になります。今回は図書館からの報告として、MedlineとPQDとのリンク付けの記事とScienceDirectの利用状況を掲載しました。その他、沢山の方からの投稿を頂きました。表紙のカットは、恒例により北村達郎氏に描いていただきました。この紙面をお借りして皆様にお礼申し上げます。OMNIBUSへの読書からの投稿を歓迎いたします。(茂幾)

OMNIBUS「大阪医科大学図書館報 / 大阪医科大学附属看護専門学校図書室報」

No.21号 2001年10月20日 発行

編集・発行 大阪医科大学図書館

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL (0726) 83-1221

(内線2799, 2621)

印刷 大日本印刷株式会社